

新春

知事対談

とちぎ誕生150年 ～共に創るとちぎの未来～

今年(2023)は明治6(1873)年6月15日の栃木県誕生から150年を迎えます。今回はとちぎ未来大使の音羽和紀さん、水沼尚輝さん、須賀由美子さんをお迎えし、本県への思いを知事と語っていただきました。



ふるさと“とちぎ”を語る

知事 皆さん明けましておめでとうございます。本日はゲストにとちぎ未来大使の音羽和紀さん、水沼尚輝さん、須賀由美子さんをお迎えしました。

3人 よろしくお願ひします。



栃木県知事 福田 富一

知事 今年は栃木県が現在のような形になって150年という節目を迎えます。そこで今回は県制150年の歩みとこれからの栃木県をテーマに皆さんとお話をしていきたいと思ひます。まずは栃木県の好きなところからお聞かせください。

音羽 たくさんありますが、小さい頃からよく行っていた日光です。あとはオリンピックの聖火リレーで走った益子も好きな所の一つです。

水沼 僕も小さい頃から自然と触れ合うのが大好きでして、日光、特に戦場ヶ原に遊びに行っていました。リフレッシュしに今でもよく遊びに行っています。

知事 何回行っても飽きないですね。須賀さんはいかがですか。

須賀 人が温かくて優しいところと、自然が豊かでそれでいて都心へのアクセスがいいので、そのバランスがちょうどいいなと感じています。ところで日光のお話がお二人からありましたが、明治時代には外国大使館の別荘がたくさん建てられたんですね。

知事 そうなんです。多くの外国人が日光の雄大な自然に魅せられ、避暑で訪れるようになりました。そしてその日光市で今年の6月に「G7男女共同参画・女性活躍担当大臣会合」が開催される予定です。

須賀 海外と接していくのは素晴らしいことだと思いますし、中禅寺湖の辺りはきれいで落ち着く雰囲気ですね。

水沼 栃木県といえば中禅寺湖、日光ということで、外国の方からも評価を得ているというのは、非常にうれしいですね。

須賀 音羽さんはいかがですか。

音羽 僕は小さい頃から昆虫採集をやっています。“それだけ”というくらいに没頭していました。中禅寺湖畔はもちろん、光徳牧場とか湯ノ湖とかいろいろな所へ虫を追っかけて歩きました。虫の話になると入れ込んだ感じがします。

水沼 意外ですね！

須賀 奥日光は緑豊かで自然が本当に美しい場所なんですね。これからも守っていききたいですね。

ゲストの皆さんの歩み

須賀 ここからはゲストの皆さんの歩みを振り返っていきましょう。

知事 音羽さんはなぜヨーロッパに料理人を目指して修行に行かれたのですか。

音羽 小学6年生から西洋のことに興味を持ち始めました。あと、母が家族のために一生懸命料理を作ってくれたというのがあって、もともと食べるのが好きなのと料理人と昆虫記を書いたファーブルとがいろいろ混じって、ヨーロッパ、特にフランスに行きたいと思ひました。

知事 地元でレストランをやろうと思われたのはなぜですか。

音羽 初めは、宇都宮で独立ということは全く考えていなかったのですが、修業先のシェフは皆さん強い地元意識があり誇りを持っているんです。そんな思いを聞いて、独立は宇都宮と決めました。



おとわ かずのり 音羽 和紀さん

宇都宮市出身。料理人。大学卒業後、23歳で渡欧し7年間フランス料理を学ぶ。帰国後、レストランを経営する傍ら、食育などにも取り組む

知事 水沼さんは何と申しても水泳ですが、なぜその道を歩み始めたのですか。

水沼 小さい頃から川に魚捕りに行ったりと、時間があれば常に水と触れ合っているような子どもでした。それを見かねた親の勧めで6歳ごろからスイミングスクールに通い始め、好きが高じて今に至ります。泳ぎが速くなることで僕をサポートしてくれるみんなが僕以上に喜んでくれるので、周りの人々を喜ばせてあげたいという気持ちが原動力になっています。

知事 須賀さんは、アナウンサーを目指したきっかけは何ですか。

須賀 大学生の時に学生リポーターとしてBSの卓球番組でアシスタントをしたことです。私自身クラシックバレエをやっていたので、「スポーツ」と「伝える」ことの架け橋になりたいとだんだん思うようになっていきました。

先人たちとのつながり

須賀 ここからは皆さんの尊敬する先輩や師匠についてお聞きしたいと思います。音羽さんの師匠はどなたですか。

音羽 若くして料理界のダ・ヴィンチと言われたアラン・シャペルという料理人です。最初はなかなか心を開いてくれませんでした。偉大な料理人の下で修行したことで、大変な恩恵をいただきました。あとは一生懸命学んでいる時の出

会いはやっぱり大事で、その頃の仲間とは今でもお付き合いしています。

須賀 本気で向き合っているからこそこの出会いですね。水沼さんはどうですか。

水沼 高校の先輩である萩野公介さんを尊敬しています。高校生の時は雲の上の存在でしたが、今では気さくに萩野先輩から話しかけてくださいます。競技力もそうですけど、人としてすごい方だと感じています。僕もそういう選手になりたいです。



みずぬま なおき 水沼 尚輝さん

真岡市出身。競泳選手。2022年世界水泳選手権100mバタフライで日本史上初のメダル(銀)を獲得。いちご一会とちぎ国体では優勝を飾る

知事 須賀さんはいかがですか。

須賀 「いちご一会とちぎ大会」の開閉会式で一緒したU字工事さんです。全国で活躍しながら栃木県のことをすごく愛していて、地元の魅力をどんどん発信してくれているので憧れます。

知事 ぜひお三方にも、これからその役割を担ってほしいと思ひます。

これからの栃木県と抱負

須賀 栃木県は誕生150年を迎えるわけで、今年はさまざまなイベントが用意されているんですね。

知事 そうなんです。早いものですと、今日15日の「いちご王国・栃木の日」記念イベントを皮切りに、6月の栃木県誕生150年記念イベントなど、年間を通じて特別な企画を実施して、ふるさと“とちぎ”への愛着と誇りを深められるよう取り組んでまいります。

須賀 ということでゲストの皆さんには誕生150年を迎えることと、栃木県の未来についてお話しいただきたいと思ひます。

音羽 栃木県には観光地がたくさんあります。これから観光分野に食をどう巻き込むのかということが非常に重要になると思っています。素晴らしい食と農を絡めて、うまく連携させていくような活動ができるように思っています。

須賀 世界で活躍する水沼さんはどのように思ひますか。

水沼 スポーツの観点からお話ししますと、いちご一会とちぎ国体で活用された施設の活性化のために、地域をどう巻き込んでいくかが大事かと思ひます。我々のような栃木県にゆかりのあるアスリートが施設と地域の人々の架け橋になって、スポーツの本当の素晴ら

しさを伝えていけたらと思ひます。

須賀 連携というのが大事なんだと改めて思ひます。巻き込む力というのはこれからの時代とて大切ですね。

知事 そうですね。みんなで取り組めるよう皆さん願ひします。

共に創るとちぎの未来

知事 今回の対談、ゲストの皆さんはいかがだったでしょうか。

音羽 世代が全然違いますけど、共通点がたくさんあるなと思ひます。年齢に関係なくまたお会いしたいですね。

水沼 そうですね、レストランに伺ってご飯を食べさせてもらいたいですね！

音羽 あと、栃木県は農業県であり観光県であることをどう伝えるかもこれからの栃木県に必要なだと改めて感じました。

水沼 僕は料理人の方にお会いするのは初めてで、すごく楽しみにしていました。お話を伺って好きなことをやり続けるということは、僕らアスリートにも通ずると知ることができ、非常にいい機会でした。これから、“世界で戦う水沼尚輝”というものを確立していきたいなと思ひているんですが、そこに行き着くためには、地元の力なくしてあり得ないと思ひます。これからパリオリンピックに向けてしっかりと練習し、栃木県の皆さんに笑顔を与えられるようになりたいです。

須賀 パリでの活躍本当に楽しみですね。私は、今年は誕生150年という記念すべきアニバーサリーイヤーなので、とちぎの魅力やすてきな人々をどんどん伝えていけたらいいなと思ひています。



すが ゆみこ 須賀 由美子さん

東京都出身。アナウンサーとしてテレビやラジオに出演するほか、イベントの司会や朗読会といった活動を精力的に行う

知事 お三方の今後ますますのご活躍を期待しています。県では日光市で開催されるG7大臣会合をきっかけとして、とちぎの魅力・実力を広く国内外に発信し、地域経済の活性化やブランド力向上などにつなげていきたいと思ひます。そして、栃木県誕生150年の記念の年として、県民の皆さまと、愛着や誇りを持ちながら未来に誇れる“新しいとちぎ”づくりに、より一層取り組んでまいります。本日は楽しいお話をありがとうございました。

対談の様子は県ホームページでもご覧になれます

とちぎ動画 検索